

石山

新宿区立 戸山小学校

季節を感じる暮らしを

主幹教諭 上野 恵 (日本語)

つきぬけて^{てんじょう}天上の^{こんまんじゆしゃげ}紺曼珠沙華 (山口誓子)

つきぬけるように高い真っ青な空の下に

真っ赤な曼珠沙華が咲いている鮮やかな秋の風景。

日本語の指導で難しいと思うことに季節の指導があります。朝や夕方などの時間を表す言葉は問題ないのに、春夏秋冬といった言葉は、意外と簡単に理解できないのです。それもそのはず、国によって気候が違うのですから当然です。ましてや都会の新宿区では季節を感じにくいのかもかもしれません。

こうしてみると、社会科、理科、生活科など、小学生の学習には日本の四季に関わる内容がたくさんあります。日本語でよく使う国語の教科書を開くと、「季節を表す言葉」を集めたり、清少納言の「枕草子」を「春はあけぼの」と古文で音読したりするページが展開されています。「俳句では季語を使うよ。」と教えても、子どもの中に季節感がなければ心を震わすような作品は生まれて来ません。そこで、写真や動画を見せるだけでなく、紫陽花(アジサイ)や秋桜(コスモス)などの実物を持ち込むようにしています。

どんなにネットが発達しても、季節は五感で感じたいものです。先日草むしりをしていると、ふと漂う爽やかな香り。見上げると、頭上で金木犀(キンモクセイ)が金色の小さな花をたくさん咲かせていました。あんなに賑やかだったセミの声はすっかり虫の声に変わっています。木々や草花のかぐわしい香り、囁くような虫の声、夜空を照らす満月の光やそのとき食べた団子の味、長雨のあとのひんやりした風。こうした秋を感じる体験があってこそ、ようやくその感動を言葉や絵で表すことができるのです。

コロナ禍で旅行も行けない、祭りもない、親戚にも会えない、墓参りもできない。季節を感じるための貴重な機会が少ないご時世だからこそ、学校や家庭に少しでも季節を持ち込んで世界に誇れる「日本の四季」を一緒に楽しんでみませんか。

感性や感受性は磨かなければ育ちません。五感を使って気づき、発見し、感じる体験を大人も大切にしていましょ。

学年の窓 3年生

3年担任

秋晴れが、すがすがしい風を運んで来てくれます。3年生の子ども達は、スポーツフェスティバルのダンスの練習や、音楽朝会の練習を通して成長し続けています。

学校で身に付けた様々な力が将来生かされたり、自信へとつながったりするよう、これからも全力で指導していきます。保護者の皆様にも、早くその成長した姿をごらんいただけることを願って、子ども達と共にごがんばっていきます。



～6年生 音楽鑑賞教室♪～

音楽専科

新宿区では、毎年6年生を対象とした音楽鑑賞教室が開催されております。本来ならば新宿文化センターに区内の6年生が集まり、オーケストラの生演奏を鑑賞する事業なのですが、コロナ禍のため昨年度に引き続き中止となってしまいました。その代替事業として、東京交響楽団より首席トランペット奏者の佐藤友紀さんとピアニストの大野真由子さんが来校し、子ども達の目の前で演奏してくださいました。

演奏して下さったのは、ジブリ映画の挿入曲や、耳馴染みのあるフニクリフニクラなど、計8曲。ホールとは違い、子ども達の目の前で演奏して下さったので、細かい指の動きや演奏者のお二人の息の合わせ方まで鑑賞することができました。

体育館がホールに変化した1時間。さすがの6年生、立派な態度で最後の一音まで逃さずに鑑賞することができました。

